

E I 事務局長 あいさつ

仲間であり友人である皆さん、70周年を皆さんと一緒に祝いすることはとても嬉しいことです。祝うことは、過去を顧みることでもあります。この会場にいる私たちは、JTUが発足したときには誰もその場にいなかったでしょうが、政治、教育、労働組合の発展がJTUなしでは起こりえなかったことは歴史が明らかにしてくれています。

1947年5月3日、この国は、文化的、社会的、経済的、政治的な分野において驚くべき変革へつながる新たな道を進み始めました。言葉で表せないほどの戦争の荒廃から日本が前進するために新たな憲法が制定されたのです。わずかその1か月後、灰燼のなかから、非常に重要なものが誕生しました。それは、大規模な戦争の傷跡から日本を癒すためだけではなく、きたるべき未来の世代を形作るものだったのです。

3団体に属していた50万人の教職員が日本中から結集することを決めた際、ひとつの目標を設定しました。それは団結です。樞原建国野外スタジアムでの何時間にもわたる話し合いの末、JTUは誕生し、新生日本の基盤となる重要な部分が整ったのです。

70年に渡る道のりには浮き沈みがあったことは言うまでもないでしょう。多くの課題を抱えながらも、すべての労働組合が大切にしている価値観を主張してこられました。

皆さん、歴史が明らかにしているように、日本の教育制度によって多大なイノベーションと偉業がもたらされました。日本の教室から生まれ出たもの、組合と組合員である教職員から出現したものが世界に多く存在しており、私たちは皆その恩恵を受けています。

超高速鉄道、音楽デバイスであるソニー・ウォークマン、美しい言葉を紡ぐ村上春樹、映像と音声の川瀬直美など、教育制度の産物ともいえるものがこの島国からはるか遠くまで行き渡っています。

また、皆さんは、過去も現在も政治的な論争に足を踏み入れることを恐れずにとりくんでこられました。組合として政府と向き合い、撤退することはありませんでした。こういったとりくみを続けることによって、いつの日にか確たる社会的対話が実現されるだけではなく、政府との関係性がなくてはならないものになっていくでしょう。EIに属する私たちはよくわかっていることですが、社会的対話の直接の一員になることは、他者の社会的対話の内容のひとつになることに比べてはるかに良いことです。

歴史のことになりますと、日本にまつわる史実は、良いことにせよ悪いことにせよ、カリキュラムに入れるべきだ、とJTUは大いに主張してきました。過去と対峙できるかどうかは、闇の瞬間とむきあえるかどうかによります。皆さんは、より深い部分へ達しています。

絶対的平和主義、中立の固持、軍事施設への抗議、再軍備への反対。平和を求めるこの4原則は、批判に晒されるなか勇気が必要です。今では、これらの原則が道義上、倫理上正しいだけではなく、過去と現在の行いが誤りであったと勇気と率直さをもって認めべきだということもわかります。

友人の皆さん、JTUは、有名なユネスコ・ドロール・レポートに記載されている4つの柱に沿ってとりくみ、実践してきました。このレポートには、知ること、為すこと、

2017年6月8日

人として生きること、ともに生きることの重要性について記載されています。JTUと組合員の皆さんは、この生きる証であり、その影響力は日本社会に及んでいます。

最近、「千日の勸学より一日の学匠」という日本の諺を知りました。そうです、皆さんは70年間学匠であることを示してきましたし、これからの70年もそうであると確信しています。

今日ご一緒できることを大変嬉しく思っております。また、教育インターナショナル執行委員会を代表し表彰状をお渡しするかのよう、このあいさつの機会をいただいたことは光栄です。つまり、平和、民主主義、社会正義、万人のための質の高い教育を推進されているJTUのとりくみが承認されている、と私たちが国際的に証明します。世界中の3200万人の教職員を代表し、あらためてお祝い申し上げるとともに、教職員と質の高い教育のためにご尽力されていることに感謝申し上げます。



フレッド・ヴァン・リューエン
Education International
Internationale de l'Éducation
Internacional de la Educación
Bildungsinternationale